

オランダ海軍の大砲

これは 16 世紀後半に鑄造されたオランダ製の前装式大砲である。33 ミリの砲弾を 300～500 メートルの範囲で発射することができ、導火線を用いて発射された。この大砲は車輪付きで、軍艦の甲板やヨーロッパの城壁の上を簡単に移動することができた。

日本では、ヨーロッパの大砲は、ヨーロッパの火縄銃よりも長く使われた。日本の鉄砲鍛冶はすぐに高品質の火縄銃を製造できるようになったが、ヨーロッパの重い大砲の銃身に匹敵する耐久性を得るには苦労した。火縄銃の銃身と異なり、大砲の銃身は一体の金属塊として鍛造されるのが普通であった。

日本で最初の大砲は、1576 年にポルトガル商人から譲り受けた 2 挺の後装式旋回砲（フランキ砲）である。1600 年代初頭には、オランダとイギリスがポルトガルに取って代わり、大砲を供給するようになった。武士の時代の最も有名な砲撃戦である大坂の陣（1614-1615）で徳川幕府軍が使用した大砲は、オランダとイギリスが供給したものである。